

編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2A (総務)  
 TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com  
 代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部200円  
 年間購読料：個人会員2000円 広報会員(3部)5000円  
 法人会員1口(5部)10000円 賛助会員(1部)10000円  
 振替口座00940-0-161341  
 「まねき猫通信」



もくじ

とくしゅう さがみはらじけん しやかい ゆくえ  
 特集：相模原事件と社会の行方-2  
 りれーえっせい わが家のトイレ事情-鈴木勉-4  
 ふっこうしょう ついきゅう きしや みなら いしづかなおと  
 復興相を追及したフリー記者を見習え-石塚直人-5  
 いのち く まも ぎかいかつどう いわた ともこ  
 命や暮らしを守る議会活動-岩田智子-7

題字：  
 塩澤 文男  
 (しおざわ・ふみお)



にゃん王国  
 絵：うーちゃん (奏海の杜)

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

「母」を書いた。ロシ  
 ゴーリキーは『母』を書いた。ロシ  
 ア革命前夜、金属工のヴラーソフは過酷  
 な労働と貧困に打ちのめされ、酒に溺れ  
 妻子に暴力を振るう暮らしをしていた  
 が、息子のパールは地下活動に参加し  
 ていた。ある日、工場でスト破りに包圍  
 されて乱闘となり、暴力団に雇われて  
 いたヴラーソフが射殺される。母  
 は「危険なことは止めて」と懇願  
 するも、息子は逮捕され、裁判で  
 懲役刑が言い渡される。「真実はど  
 こ！」母の悲痛な叫びが法廷に響い  
 た。母は変わった。メーデーの日、  
 街の隅々から次々とデモの隊列に加  
 わってくる労働者たちの中に、母も  
 いた。赤旗が翻り、それに呼応し  
 た多くの囚人たちが射殺されたが、  
 脱出に成功したパールは母と抱き  
 合う…その瞬間、騎兵隊の銃弾が  
 襲った。赤旗を持って隊の前に立ち  
 はだかった母も、剣の一閃を浴びた  
 ▲三浦綾子も『母』を書いた。特高  
 に虐殺された小林多喜二の母・セキ  
 は、何も悪い事をしていないのに殺  
 された我が子とイエスの姿を重ね合  
 わせて、信仰を得る。神に「白黒つけて  
 くれ」とセキは祈った▲「生きるに値し  
 ない命」を是とするこの国家が殺すのは、  
 アカ・ヤクザ・カゲキハ・ショウガイシャ・  
 フテイセンジン、如何様にもなる。そし  
 て、共謀罪は幾千万の「母」を産み出す  
 だろう。  
 (ハギ)

# 相模原 殺傷事件 優生思想を広く受け入れてきた社会の問題として 一人一人いろいろな生き方をしていると あたりまえに言える社会に

昨年7月26日、神奈川県相模原市にある「津久井やまゆり園」で大量殺人事件が起きました。19人が死亡し、26人が重軽傷を負うという痛ましい事件です。この事件について「初耳学」テレビでは聞けない相模原事件のこと（主催：自立生活夢宙センター）が行われ、第一部としてDPI日本会議副議長 尾上浩二さんが講演しました。尾上さんは、「この事件の本質は、根強く蔓延る優生思想であり、インクルーシブ社会への歩みこそが、対策である」と語っています。講演要旨を掲載します。

**この事件の根本にあるものって何か？**

事件から数日後に、複数のマスコミから「知的障がい者の人権と精神障がい者の人権を両立させるのは難しいですね？」という趣旨の問い合わせがありました。質問の前提にある事件のとらえ方は、「入所施設で平穏な生活をしてきた知的障がい者を、薬物依存者または精神障がい者が殺めた事件」というものです。しかし、被害者たちは、「入所施設で平穏な生活」をしていたのでしょうか？ 本人が希望して入所したのでしょうか？ 未だに、事件と薬物依存や精神障がいの因果関係は何も明らかになっていませんし、精神鑑定では、「責任能力あり」との結果となつています。容疑者の取り調べからは、優生思想という点では、「一貫性」を感じます。

先の質問には、この事件を「障がい者の世界のなかで起こった事件」として閉じこめ、早く蓋をして、一般社会とは無関係の事件として処理しようとする姿勢がうかがえます。



講演する尾上浩二さん

事件から2日後に厚労大臣が、再発防止として「措置入院制度のあり方の見直し」を発表しました。これで報道の流れが変わつたように思えます。昨年12月に発表された報告書では、措置入院退院後も「支援」という名の監視をする仕組みが作られようとしていました。これには、警察の初動対応の問題が不問にされたことが関係しています。

容疑者が2016年2月に衆議院長宛に出した手紙には、2つの入所施設を名指ししたうえで詳細な「作戦内容」が書かれています。

「優生思想」で引き合いに出されるのが、ナチス時代の「4作戦」です。20万人の障がい者が虐殺されました。しかし、日本では優生保護法が1996年まで続きました。いまだに16000件以上の強制不妊手術被害者に謝罪・補償はなく、21世紀に入った今も医療現場では、障がいのあるお父さんやお母さん、それに従って犯行に及んでいます。しかしこれが保育所や小学校なら、「警察は何をやっていたのだ！」と強い批判が起きていたはずなんです。そうした警察の初動対応の問題が不問にされたまま、措置入院後の問題へすり替えられていきました。

さらに「防犯対策」名目で施設の壁を高くすることが提唱されています。大阪府でも各入所施設に対し、鍵の厳重化や夜間の人の出入りのチェックを厳しくするよう指導されています。しかし、今回のような確信的な事件に対して「防犯対策」

はほとんど意味がありません。今回の容疑者は、「自分は正義を行っている」と思っているのです。逮捕も覚悟で事前に犯行予告までしています。元職員なので防犯カメラなど施設の設備も知っているのです。本当に物理的に防ぐなら、刑務所並に社会から切り離して拘禁性を高めるしかないのです。

問題の核心は、優生思想がなぜこの社会に蔓延しているのか？ どう克服するのか？ であり、これを避けて考えようとするから、まちがった道に進んでいるのだと思います。

るので、適当なところで見切りを付けるという法律です。新型出生診断もあり、優生思想は、過去の問題ではないのです。

**優生思想と障がい者運動**

「優生思想」で引き合いに出されるのが、ナチス時代の「4作戦」です。20万人の障がい者が虐殺されました。しかし、日本では優生保護法が1996年まで続きました。いまだに16000件以上の強制不妊手術被害者に謝罪・補償はなく、21世紀に入った今も医療現場では、障がいのあるお父さんやお母さん、それに従って犯行に及んでいます。しかしこれが保育所や小学校なら、「警察は何をやっていたのだ！」と強い批判が起きていたはずなんです。そうした警察の初動対応の問題が不問にされたまま、措置入院後の問題へすり替えられていきました。

さらに「防犯対策」名目で施設の壁を高くすることが提唱されています。大阪府でも各入所施設に対し、鍵の厳重化や夜間の人の出入りのチェックを厳しくするよう指導されています。しかし、今回のような確信的な事件に対して「防犯対策」

問題の核心は、優生思想がなぜこの社会に蔓延しているのか？ どう克服するのか？ であり、これを避けて考えようとするから、まちがった道に進んでいるのだと思います。

るので、適当なところで見切りを付けるという法律です。新型出生診断もあり、優生思想は、過去の問題ではないのです。

**政府の対応の問題点**

この事件をきっかけに日本社会は、期せずして障がい者を排除する方向に、向かっているという危機感があります。ここに新しい衝撃を受けています。一つは、被害者の匿名報道の問題です。19名の被害者は、

# 当事者の声

第2部・シンポジウムでの発言を紹介しします。

## イメージと実際のギャップ

陶延 彰 (夢宙スタッフ)

精神障がい者は、マスコミで報道される「精神障がい者=怖い人」というイメージにビクビクしながら生きています。イメージや強烈な感情が理性に勝ってしまうこともよくあるからです。私も地域で暮らしていますが、「変な人と思われるんじゃないか」、「普通とは何か？」を考え続けています。

精神障がい者のイメージは、下がりっぱなしです。警察なら不祥事が起こっても、「警察24時」という番組などで、「頑張る警察」の姿が伝えられ、イメージの回復もできます。しかし、精神障がい者は、事件が起こるたびに恐怖のイメージが強められています。マスコミで伝えられる不安定なイメージと実際に生活している姿は、かなりかけ離れています。地域で真面目に生きている姿を多くの人に伝えていきたいと思っています。

## 地域で生きていく

妹尾美紀 (ピープルファースト大阪 副代表)

相模原事件があってピープルファーストでは、全国大会のテーマとして取り上げました。ピープルファースト横浜のなかまが、やまゆり園を訪問した時のビデオも観ました。しかし、被害者の名前が報道されなかったもので、なかまがどうなっているのかわからないとも言っていました。

入所施設では、時間が決められ病院みたいで私は嫌です。私は障がいがあっても地域で生きていけると思っています。だから周りの人たちにもそう伝えていきたいです。障がいがあるからといって他人に迷惑をかけるものではないし、ただ生きているだけでそんな風にいわれるのは悲しいと思います。私たちは障がい者である前にひとりの人間です。ちゃんと人間として扱って欲しいです。

2014年に批准した「障がい者権利条約」が目指すのはインクルージョン社会。誰も排除されない社会です。ところが今回の事件は、真逆に障がい者は社会から出て行けというエクスクルージョン排除に貴かれた経過を辿っています。神奈川県知事は、「この事件と闘うために、施設を建て替える

「この事件と闘う」というならば、「入所施設のなかながわけん、誰もが地域で暮らせる神奈川県を、全責任を持つて作り直す」と語るこそが、最後に、あらためてインクルージョンな地域社会作りをどう進めるかについて提案します。大阪は、地域生活への移行やインクルージョン教育の発祥の地なので、これをもっと進めて欲しいです。また優生保護法の被害者への謝罪、優生思想の克服を、社会全体で取り組んで行って欲しいと思います。

一人一人違う名前があり、個性があり人生がありました。その被害者たちが、「障がい者」とひとくくりになされることで記号化され、透明な存在になっていきます。

昨年1月に、高速観光バスの転落事故の追悼報道では、「亡くなったAさんは、卒業したこんな道に進みたいと思っていた」というふうには、犠牲者の名前や顔や人生が語られ、思いをはせることができませんでした。この匿名報道が、事件の風化をいっそう促進しているのではないのでしょうか。家族が匿名を求めた背景として、障がい者を隠して暮らすことを強いてきた

地域社会の問題があります。障がい者差別禁止法の事例募集では、「親戚の子どもの結婚式に、自分だけが呼ばれなかった」という事例が寄せられました。「結婚に差し障りがある」という理由です。親族の結婚式などの時に、障がいがあることを隠すという風潮が、まだまだ残っていると思います。4月から国会審議が始まった、精神保健福祉法「改正」案では、事件の再発防止を掲げ、「改正の趣旨」のなかで「この事件は）犯罪予告どおり実施された」と認めています。再発防止を語るのなら、警察は何をしていたのか？が、第一の課題

のほうです。ところがこの点は無視され、精神医療の問題にすり替えられています。そのうえで、精神障がい者監視のために警察官が付きまとうような仕組みが作られようとしています。しかも法案審議中の精神鑑定で「容疑者には）責任能力あり」という結果が出たため、精神医療と再発防止の関係について説明できない事態となりました。それでも「法律の趣旨にかかれた最初の二行を消します

が、内容は変えません」という無茶苦茶な法案です。政府はこの事件を、障がい者施設の中で起こった猟奇的な事件として処理し、精神障がい者を監視し、

「この事件と闘う」と言っているわけです。「この事件と闘う」というならば、「入所施設のなかながわけん、誰もが地域で暮らせる神奈川県を、全責任を持つて作り直す」と語るこそが、最後に、あらためてインクルージョンな地域社会作りをどう進めるかについて提案します。大阪は、地域生活への移行やインクルージョン教育の発祥の地なので、これをもっと進めて欲しいです。また優生保護法の被害者への謝罪、優生思想の克服を、社会全体で取り組んで行って欲しいと思います。

## インクルーシブな社会を

もう一つは、神奈川県への対応です。神奈川県は、入所施設を、同じ規模と場所で建て替えることを公表しました。「事件に屈しない」ためだということです。その根拠とされたのが、「家族の意向」です。「やまゆり園には重度の人もいて、意向確認は難しいので家族に聞いた。家族の意向と本人の意向が違うはず

はない」という理屈です。家族の意見と障がい当事者の意見が違うことは沢山あります。障がい者運動は、その違いに着目して、各々がどう自立できているのか？を考え続けてきたのに、21世紀の今になって、「家族の意見」本人の意見だという理屈を聞くなんて思いもよりませんでした。タイム・マシーンに乗って過去に戻っているような感じですよ。

私が18歳の時から関わってきた障がい者運動40年間で、少しは歴史は前に動いていると思っています。しかしこの事件がきっかけでフタがはずれて、優生思想をはじめ、閉じこめていた様々な問題が地の底から出てきたような思いがあります。原因は、事件の本質がちゃんと捉えられていないからです。